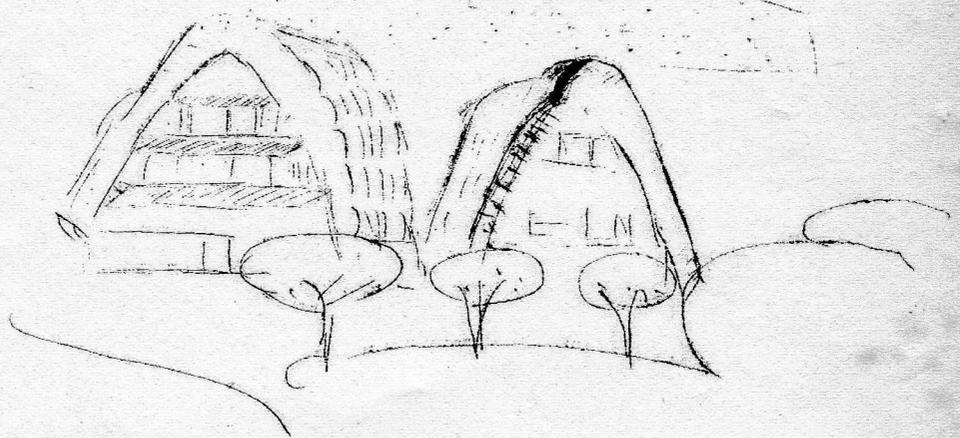


飛驒足路



名古屋大学 郷土研究会

— ま え が き —

君にささげる小文！！

君をはじめで知ったのは僕が一年生の春休みだった。激しい北風に白波をたてた太平洋をながめつつ瀬美島の海岸を君と旅したんだ。その時から君がすきになったんだ。徹夜で君と話したこともあった。小京都といわれる高山を君と11月にじくりに感じたい。白川郷の素朴さも君なしではわからないだろう。緑にはえる飛騨の山々、透通るような御母衣ダムの水、その中に名金線が走り、崖フタを突走るダンゴを見る度に君のかれんさにぼくは心をひかれるのだ。君を忘れてしまったマイカー族、君をすててスマートな旅をする若者、彼らもなにかを求めている。しかし君は厳しいからもう君から離れたくなる。今度の合宿もそんな時が一度や二度はあるだろう。けれど君はすばらしい。君の中に僕は人生の苦しみも楽しみもすべて見つけ出すことが出来るのだ。今度も君と11月に飛騨を探検し、君故に苦しみ、君故に楽しむ、君故に悩むだろう。しかし友と共に君の試練を体験すればすばらしい。サークルの仲間と生活の活力もえることが出来るだろう。そして君のすばらしさに僕も部員も敬服するであろう。

K-H

白川郷

白川信仰と白川郷

白河郷は、飛騨の西部の山谷で、庄川流域の荻川村と白川村の地域で、四国の祖谷峽や九州の五箇荘とともに、昔から交通不便な別天地とされていた。

縄文時代中期から後期に属する土器や石器が至るところで見られ、白川村の山尊校と荻川村の荻川神社に所蔵されている。しかし、弥生時代の遺跡や古墳は、まだ発見されていない。荻川神社社殿の移転の機会に、平安時代の遺品が出土し、荻川村六所(ムイ)地区に、礎石十数個が列ねられているのか、発見されたが、美濃の郡上郡白鳥村の長滝寺の別院跡ではないかと囁かれている。長滝寺は、717年、加賀(石川県)の白山を開いた秦澄の創建と伝え、「中ノ宮」として世人の信仰の厚いところである。表日本から白山参詣者の里ノ宮から、長滝寺に詣で、越中を経て白山に登るので、その街道筋に白川郷が、成立したのであろう。

関白九条兼実の日記玉葉には、1176年10月22日に、兼実が藤原頼実に白川郷を与えたことが、載せられている。

真宗の布教

白川郷内の御母衣木谷、長瀬などの人々は、武中砺波山の戦いで敗れた平家の落ち武者の末孫であるといわれ、根拠は、中世に白川の名が有名になったのほら、真宗の弘布(ゲフ)に伴ってである。後鳥羽上皇の皇子と伝えられている嘉念坊善俊が、1253年8月美濃国郡上郡かう白川郷にはいい。1265年鳩谷に真宗道場嘉念坊を開いた。その後9代にわたる布教に全力を注ぎ、真宗勢力が、大いに浸透した。

1460年内が島為氏は、足利義政の命をうけて、白川郷には、川・牧戸城によって、真宗勢力に対抗した。1475年ついに武力を用いて、九代明教の兄、三島教信を破り、白川郷を支配した。明教の子明地は、この地の回復に心を使ったが、1488年本願寺連如の調停によって和平し、中野の部落に道場(照連寺)を再興した。内が島は、1585年に大地震による山津波のため、族・家臣とともに、埋没して滅びた。

この地域1500石余(1613年検地)42ヵ村は、江戸時代を通じて照連寺領16ヵ村のほかは、高山の金森領、のちに幕府直轄地として統治された。この地は、地味が悪く、白川郷の未作地芋の飯島・鳩谷でも、上田一石一斗、上畑九斗という石盛りで他の

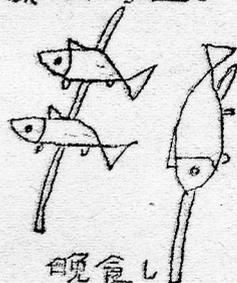
村には、ほとんど上田、上畑は皆無で、中田二斗、中畑一斗というものが、一般であった。村人は、この悪い生活条件のもとに、焼き畑耕作や焙硝、蠶の生産などで、その生活を、たてていた。

養蚕・合掌造り・大家族制

明治の中ごろからこの地方の合掌造りの大家屋に1戸30人〜40人も同居する世帯のあることが知られ多数の学者が調査研究を行っていた。一地域でこれほど多様な研究物が出てくるのは珍らしい。なかには古代大家族制度が残存しているのではないかとする意見もあったが、現在ではその必りとは考えられていない。これは平地のほとんどない峡谷で、分家するにも耕作地は少なく、又江戸時代の中ごろから養蚕という新しい産業の影響を受けて、家屋内は養蚕に必要なあまき地を求めたために工夫されたもので、大家族には12世紀初めごろからはっきりした形態をもっていたと推定される。この地域の合掌造りに2つの形式がある。1つは白川村に見られる切妻式であり、1つは桂川村に多い穿襟式合掌造りである。



我らのテント



晩食し

民俗芸能など

この地は陸の孤島であっただけに風俗・習慣・行事などに古い形式のものが多い。古大戸とり、正月に戸ごとにお札着めて行く春駒の踊り、金の発見されたのを喜こんで踊る千本づきなどで近世初期に発生したものと考えられている古風素朴で現代人の郷愁をさそうものがある。御母衣以北ではいくつものダムが建設され、埋没地域にある合掌造りは高山・名戸屋・横手・東家などに移築されたものが多い。

どぶろく祭り

御母夜ダムで有名になった白川村では秋の収穫のすんだ10月中旬に村祭が行なわれる。この時こそ神社につくりこんであるどぶろくもたらふく飲んでほんとうに彼を忘れて踊ることが出来た。後になって酒をひそかにつくることが禁じられてからもこの酒だけは、神事の一部として石に限り許可された。

合掌造り

~~篠田の~~

係驛の庄川流域にある白川部落の合掌造りはあまりにも有名であるがこれは富山県との五箇山の民家と同じ造りである合掌造りは大家族と結びつけて考えられていたようだが、合掌造りの部落が全部古くから大家族であったわけではない。だから住家の間取りも小さい家から大きい家までのいろいろの変化が見られる。合掌造りの特色は間取りでは中央に「おひえ」という玄関があり、これが日常家族の共同の居室になっており、その上手に「宇エ」又は座敷があり、又大家族の家には寝間が敷居裏側のほうに設けられている。屋根は切妻造りになって合掌を両うがう交差して、三角形に組み、二階又は三階になっている。

水屋

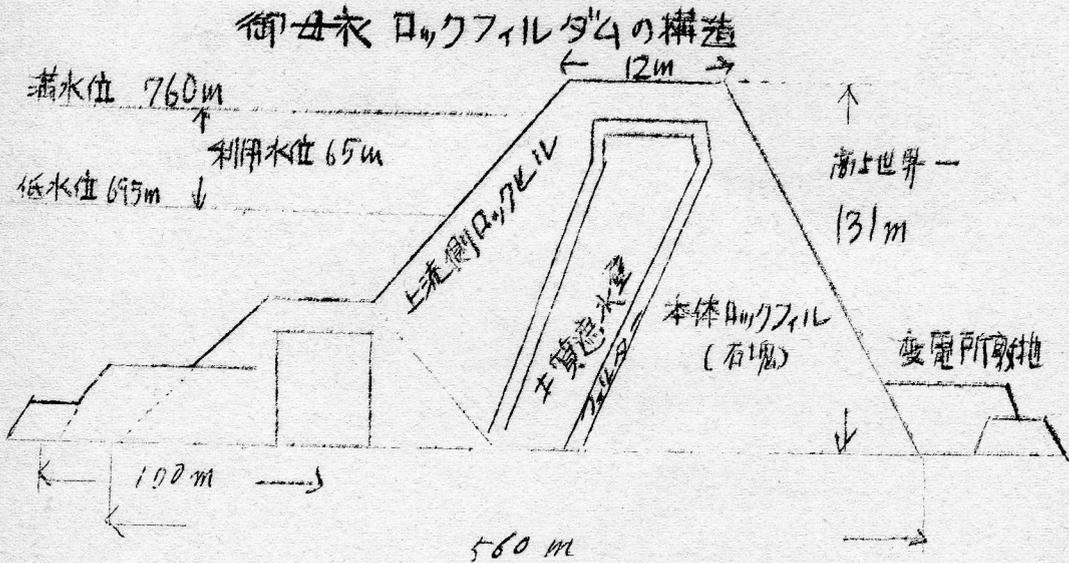
白川の民家は昔はすべていろいろ炊事をした。小さい家は「おひえ」のいろいろで大きい家はうしろの茶の間をいろいろ使った。これを台所ともいうが、この名称を使うところは少ない。流しは裏の山地から竹のガケで水を引いてきて、大きい水田に流すも木がふれていたのである。だから古い家はここを「クンジャ」(水屋)と呼んでいる。前面に紙をはった捲子のモスコがあつて昔ながらの生活が見られる。

屋根裏

合掌造りの構造は梁の上に合掌を前後から交差して三角形に組まれる。合掌と母屋とをネリの綱でしばりつけてある。合掌には大きい角材を使うのがこの地方の特色である。この屋根裏をソラとかアマとかソラアマなどと呼んでいる。ここには人は住まなかりて、雪の上族のときや収穫物の貯蔵に使用する。

御母衣ダム

合掌造りと大家族制の古い歴史を秘めた白川郷に代わって新しい観光地が又一つ生まれた。富山湾に流れる庄川の上流、御母衣に大きなダム湖が完成した。このダムは昭和32年6月から工事を開始、36年10月から操業を始めている。このダムは最大出力21万5000KW、日本でははじめてのロックフィルダムである。珍しいのは岩と土と粘土だけで築いた大堰堤。高さ131m、巾450m、体積80万立方メートルの大きなもの。川底に東京の丸ビルをのみこむほど大きな地下発電所が埋められている。ダムからの落差210mを利用してタテ軸用鎖門動循環という日本最大の発電機二台を動かしている。この発電所からの放水トンネルは8898.7kmで下流の鳩が谷まで水をみろびりしている。



改築されたものである。一方、城下の三平門と、代樹の取りかた、わさかた、残っているか、白山寺の上門

この城は三つの山から成り、大鍋山頂(標高752m)に本丸、下鍋山に二の丸、小鍋山に出丸がつくられた山城である。上望の他に一部石塁が施されており、現在本丸曲輪の腰北南東にコノ字形の石塁がある。兼城は天正年中と思われ、天正13年益田街道を北上した金森重に占領された松倉城とともに築落城した。後、天正18年に金森氏が高山城を築くまで、豊行政の中心となつた城である。

鍋山城

高山市松ノ本

高山市面一色町にある。現在観音堂の跡と、本丸跡、正7年三木自科は、金森軍は、早民俗を蔵城は、蔵城と、蔵の重松寺の

高山市面一色町にある。現在観音堂の跡と、本丸跡、正7年三木自科は、金森軍は、早民俗を蔵城は、蔵城と、蔵の重松寺の

松倉城

高山駅南面0.4km

高山市面一色町にある。現在観音堂の跡と、本丸跡、正7年三木自科は、金森軍は、早民俗を蔵城は、蔵城と、蔵の重松寺の

高山市面一色町にある。現在観音堂の跡と、本丸跡、正7年三木自科は、金森軍は、早民俗を蔵城は、蔵城と、蔵の重松寺の

東山寺院群

街の東部にある丘陵が東山で多くの神社仏閣が集まり、京師の東山を思わせるあたり、小京都といわれる所以であり、あるようである。

宗献寺 --- 山岡鉄舟、同父母の墓

法華寺 ----- 加藤清政の孫光政の墓
 清政の死後長男忠広は、熊本52万石を奪われ庄内へおいやされた。その長男光政はムホンをしてたと云って高山へ流された。この14才の少年はここで死した。

素玄寺 --- 高山城主金森長近の墓

大隆寺、白山神社等の他...

民族館、民芸村、郷土館、特産館

市面部に飛騨各地の古い家や民俗資料を集めた、民芸村があり、国の重宝である。日下部邸、吉島邸、岡氏家、民芸館、特産館として開館した。また郷土館には、民俗を中心として、民俗史上、貴重な、たくさん
 の古い調度品や衣服、道具が、展示されており、天明5年皇術の巻を巻いて奉納したという尊徳も、その一つである。建物も、古い文庫館、そのほか、和洋に、和気合田のサマ。



合宿の生活

6:00 起床

7:00 朝食

8:30 出発

7 徒步行軍

12:00

昼食

1:00

7 徒步行軍

4:30

6:00 夕食

7:30

7 ミニゲーム

9:30

10:00 就寝

Meeting の題目

8月25日

8月26日

8月27日

8月28日

MeMo

日程

①集合: 名古屋駅 9:00 於金の柱

②日程

1日 名古屋 ~~岐阜~~ ~~北農~~ 牧戸 ~~中野~~ (自)
 9:48 11:48 13:57 約6km 4:30
 10:02 11:07 (11:51)

2日 中野 ~~岐阜~~ 御衣 木谷 (自)
 8:30 4:30

3日 木谷 鳩谷 ~~北農~~ 牧戸 新洲 (自)
 8:30 2:01 3:01 4:30
 2:29 3:27

4日 新洲 輕岡峠 六既 松本峠 夏麻 (自)
 8:30 11:49m 10:87m 24,51km

5日 夏麻 小鳥峠 高山 名古屋
 8:30 9:20 10:40 7:15
 9:50 3:45

共同装備 テニト・スコップ・ナベ・ハンゴ-・タワシ・包丁・コト板
 ショモジ・バケツ・洗刷・フキン・缶切り・ラチ巾・マッチ
 針金・糸針・薬品・殺虫剤・ローソク・地図・磁石極
 カメラ・ラジオ・ロープ・トランプ 筆記用具 ナフ
 固型燃料 ユニール ラジース 秋集 時計 懐電灯

個人装備

帽子 靴下 手袋 雨具 タオル 手板 洗面具 水筒
 ゴザリ 食器類 ナイフ フォーク ビニール 新聞紙
 筆記用具 身分証 証・Y.H 会員証 薬品 米(1斤5合)
 折り紙 レポート 資料 毛布 シュラフ

1967. 7. 10 発行
編者 名大郷土研究会
発行者 "
#11111者
西川洋、杉浦、井村、伊藤、寺本、塚本
非売品